市報 ぎょうだ
No. 861
平成30年3月1日 発行

行田 歴史系譜 288

歴史を語るこの〝いっぴん〟 ～博物館の収蔵庫から～ 24

忍藩士の軍服

個人蔵

武士にとって甲冑は、平安時代後期から江戸時代までその形を変えながらも、主要な防具として機能してきました。しかし、日本が開国し西洋の軍事技術が入ってくると、武器や軍装にも変化がみられるようになりました。

鉄砲は火縄銃から雷管式のゲベール銃、さらには砲身に施錠（ライフル）を切ったエンフィールド銃が導入されました。大砲もモルチール砲（臼砲）やホーイッスル砲（榴弾砲）、カノン砲などが使用されました。これらの武器を運用するために、幕府や諸藩は軍事編成を歩兵や砲兵を主体とする編成へと変えていく必要がありました。軍装も甲冑中心から軽装化が図られ、軍服が導入されていきました。

忍藩でも慶応3年（1867）11月に甲冑を廃止して軍服に改めました。写真の軍服は忍藩士千葉昌胤が着用したもので、現在所在が確認されている唯一の藩士の軍服です。松平家の合印である釘貫紋が入った腰紐もあり、これに刀を差したのでしょう。また、同時に藩の兵制も改革し、重衛隊、親衛隊、表銃隊、新撰隊、聚合隊、聚合隊並、撒兵隊などを設置しました。重衛隊は無役の藩士、親衛隊は藩主の近習たち、表銃隊は馬廻、聚合隊はお目見え以上切米取、聚合隊並はお目見え以下切米取、撒兵隊は主に足軽によって編成されました。

慶応4年（1868）3月11日に新政府軍が忍城下に進軍すると忍藩は恭順の意を表し、以後は新政府軍の一員となり、藩士たちは軍服を着用して北関東や南東北を転戦しました。明治4年（1871）7月に実施された廃藩置県により忍藩の家臣団は解体され、藩の軍事力も消滅しました。残された忍藩の軍服は激動の時代を伝える証人ともいえるでしょう。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

腰紐

忍藩士の軍服

特定非営利活動法人 埼玉介護福祉美容協会・シリウス

つながる ひろがる みんなのチカラ ～市民公益活動団体紹介～⑮

送迎によるシャンプーサービスの様子

高齢者や障害者への訪問理美容事業をはじめ、子どもの健全育成や情報化社会の発展のためのパソコン教室などを主催しているのが「特定非営利活動法人埼玉介護福祉美容協会・シリウス」です。

平成16年に設立され、現在、会員は約30人。訪問理美容事業は、さまざまな理由から自力で理・美容室を訪れることが困難な方々が利用し、店舗への送迎によるものを含め、その数は年間10件に上ります。こうした中、昨年の成人の日には、障害のある新成人が難しいと諦めかけていた晴れ着の着付けも引き受け、本人とその家族からとても喜ばれたそうです。「その時の新成人のうれしそうな表情が忘れられません」と理事長の澁澤髙雄さんは優しくほほ笑みます。

また、パソコン教室は近隣の子供たちを対象に、週1回行っており、父兄からとても好評とのこと。今後は、障害のある方にも教室に参加してもらうことで就業へとつなげたり、グループホームの開設も視野に入れたりと、トータル的なサポートを目指していくそうです。

そうした活動の一つ一つが、夜空にきらめく恒星シリウスのごとく、これからも光り輝き続けるに違いありません。

【理事長】澁澤 髙雄　【電話】556―6882

今月の表紙

2月13日、須加小学校体育館で芸術文化ふれあい事業「箏曲・三絃鑑賞会」が開催されました。

この日は「埼玉県箏曲生田会」の皆さんが同校を訪問し、箏・三絃（三味線）・尺八で「春の海」など4曲を演奏し、楽器の成り立ちや特徴などを説明しました。鑑賞後、演奏者から手ほどきを受けながら箏で「さくら」のフレーズを弾く子供たち。伝統音楽に触れ、貴重な体験ができたようです。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116